



安井 博史 (やすい・ひろふみ) 氏
静岡県立静岡がんセンター消化器内科部長
1997年滋賀医科大学医学部卒。同年から同大付属病院第二内科(消化器・血液内科)入局。2004年から静岡がんセンター消化器内科レジデント。07年消化器内科医長、10年から同部長。日本内科学会、日本臨床腫瘍学会、日本癌治療学会など所属。

抗がん剤治療の副作用

がんに対する抗がん剤治療には、手術後に抗がん剤を行う事で完治・治癒を目指す補助化学療法と残念ながら切除できない進行性がんに対して延命につながる治療があります。近年の抗がん剤治療は、患者さんが自分らしい時間を過ごせるような、生活の質(QOL)を向上が大きな目的になっていきます。

医師は、抗がん剤治療を始める前に、抗がん剤のは効果とリスクのバランスです。効果を最大にしなから副作用をいかにコントロールするかがカギになります。

抗がん剤治療中におこる感染症対策

種類と名前、投与のスケジュール、予想される効果、副作用について説明をします。薬の使用で重要な

一方、医師が注意するのは目に見えない副作用です。白血球や赤血球、血小板の減少という骨髄抑制は

細胞の分裂が速いので、薬が、がん細胞とみなして同様に攻撃してしまいます。すると、血液中の白血球や

感染症リスクを減らす自己管理とは

うかを判断します。

感染症の初期症状の多くは発熱です。38度が注意の目安ですが、あわてず、解熱剤で一旦は対応してください。ただし、

①38度の熱が出て、その後いったん下がったが、再び

静岡県立静岡がんセンター 消化器内科部長 安井博史氏

スクの着用など、自分でできる予防を心がけましょう。

②38度の熱に加え、下痢や食欲の低下などの症状がある

抗がん剤治療の副作用は、大きく分けて二つあります。患者さんが自覚できる副作用は、吐き気、食欲不振、口内炎、下痢、脱毛、倦怠感、めまい、うつ症状などです。辛い症状ですが、

私たちの骨の中で新しい血液を作る工場が骨髄です。がん細胞は正常な細胞より速く増殖するため、そのスピードを落とすために

抗がん剤の種類などの個人差があります。症状が出るまで副作用の進行に気づかず、一気に重篤化する危険もあります。それを防ぐには定期的な血液検査が必要です。医師は、定期観察を

また、ウイルスや細菌など感染源からできるだけ身をを守ってください。手洗いやうがい、マスクの着用など、自分でできる予防を心がけましょう。

③初回から39度を超えるような高熱が出た

がんを正しく恐れよう ~最新の治療とケア~

〈企画・制作/静岡新聞社企画事業局〉

静岡県立静岡がんセンター公開講座第9弾「がんを正しく恐れよう~最新の治療とケア~」(静岡新聞社・静岡放送、三島市民文化会館主催、県立静岡がんセンター共催、スルガ銀行特別協賛、三島市、同市教育委員会後援)の第3回が11月23日、三島市民文化会館で開かれ、安井博史消化器内科部長と倉井華子感染症内科医長が「抗がん剤治療中におこる感染症対策」「感染症にならないために~がん患者に多い感染症とその見つけ方、予防法~」をテーマに講演しました。その概要をお伝えします。

がん患者は感染症に弱い

がん治療を受けている患者さんは、感染症にかかりやすくなっています。化学療法や放射線治療などで免疫力が低下したり、手術跡などから病原体が体内に侵入しやすくなったりしているからです。

人間の体の中にはおびただしい数の細菌が生息しており、普段は平和に共生し

なりがちです。また感染症を乗り切ったとしても、手術や抗がん剤治療が予定よりも遅れてしまう可能性も

感染症にならないために

リスクを積極的に排除する

まず感染症の危険に曝されるリスクを減らすことが重要です。第1はまず手を洗うこと。トイレの後、食事の前、調理の前後、帰宅後はもちろん、患者さんが

2つ目は予防接種です。インフルエンザワクチンは、患者さんとその家族の方も受けてください。

肺炎球菌に有効なワクチン接種

がん患者さんがかかりやすい感染症に、肺炎、尿路感染症、血流感染症があります。せきや痰、胸の痛みなど、肺だけの症状で、熱があるときは肺炎の可能性

スクが健常者の5~60倍、特に血液悪性腫瘍と肺がん患者が高いといわれます。また胃がんや膵臓がんで脾臓を切除した方が感染すると、死亡率が40%から70%と非常に高くなります。肺炎のワクチンは5年に1回

怖いのは合併症です。例えば眼内炎、椎体炎、感染性心内膜炎もあります。カテーテルが入っている患者さんが熱を出したときは早めに病院に連絡するようにしてください。



倉井 華子 (くらい・はなこ) 氏
静岡県立静岡がんセンター感染症内科医長
2002年富山大学医学部卒。同年東京都立駒込病院レジデント。05年横浜市立市民病院感染症内科。10年静岡がんセンター感染症内科医副医長。12年より同医長。日本感染症学会専門医。インフェクションコントロールドクターなど。

必ず手を洗ってください。手拭きタオルは小まめに取り替え、細菌の混入を防ぐために、ハンドソープ

3つ目は、マスクです。空気中のウイルスが鼻や口につくのを防止し、「せきエチケット」を守るのにも

食事やだ液などがむせやすい人、肺がんや肺気腫など肺に問題がある人、免疫不全がある人は、肺炎を起

感染症を早く見つけて適切な治療を

尿路感染症も、がんの患者さんが罹りやすい疾患の一つです。

質疑応答

事前や当日寄せられた質問を中心に質疑応答が行われました。紙面の都合により、本講座の内容に即した質問事項をまとめました。

Q 抗がん剤治療中の予防接種は可能ですか。
倉井 インフルエンザ、肺炎球菌ワクチンともに接種は可能です。2つ同時の接種も問題ありません。問を置く場合は1週間程度が適当です。

Q 胃がんの手術後、抗がん剤「TS-1」を飲んでいますが、副作用の下痢に悩まされています。
安井 胃がんの手術後は食事が安定して取りにくく、薬の副作用も出やすくなる場合があります。今後同じような症状が続くとは限りませんので、まずは下痢止めを使用したり、主治医と相談の上、飲み方を変えたりして対応してください。

Q 副作用の弱い抗がん剤の開発が進んでいます。
山口 副作用の弱い抗がん剤の開発が進んでいます。副反応で体調を損なっては本末転倒です。症状がつかずすぎる場合は治療中止も選択肢の一つです。

1つです。突然39度、40度の熱が出て、その1、2日前から、排尿時痛や残尿感などの膀胱炎の症状が現れます。また急に片方の背中